



## 第24回

相模原市医師会

## 今月のドクター 小口弘毅先生

今月の担当 梅澤 慎一（会報編集委員）



今月号でご紹介するドクターは相模原市中央区鹿沼台で小児科（おぐちこどもクリニック）を開業されている小口弘毅先生です。先生は私と同じ北里大学病院で勤務医経験を積まれた方で、実質8年間同じ病院にいたわけですが、在籍中にお会いしたことは一度もありませんでした。というのも彼の専門は新生児科で、NICUに（彼の言葉を借りれば）1年中缶詰になっていたのがその理由です。開業後はその経験を生かされ、一般小児診療以外に発達相談や子育て支援などの非営利的な活動にも積極的に取り組まれており、地域の障害を持つ子供とそのご家族の力強いサポーターとなっております。

先生が近年力を入れて取り組まれている“あおぞら共和国”の建設支援のチャリティーイベント“新緑ウォーク2016”に私自身が参加することができましたので、その思い出に触れながら、先生の人となりを紹介したいと思います。

あおぞら共和国とは認定NPO法人難病のこども支援全国ネットワークが2011年に立ち上げた「みんなのふるさと“夢”プロジェクト」実行委員会（委員長 仁志田博司，副委員長 後藤彰子）の発足に始まり、2012年9月に開発申請、2013年3月から着工が始まったものです。その主体は難病の子供たちとその家族が利用できるキャンプ場の建設です。場所は山梨県北杜市白州町、自然に恵まれたとても素晴らしい環境です。基本的な

コンセプトとして・難病や障害のある子ども達と家族が、好きな時に、気兼ねなく数日間を過ごせる場。・みんながそれぞれの故郷として、いつでも集まれる場。・自然と触れ合い、大地を実感できる場。・家族や関係者の研修の場として利用する。などが挙げられております。先生は着工前から建国に深く関与しており、大きな地元支援団体の一つである「甲府一高あおぞら会」の立ち上げにも尽力されております。同会は先生の出身高校である県立甲府第一高等学校の同窓生へこのボランティア活動を紹介されたことに端を発し、80人以上もの賛同者が集まって、昨年2月に設立されたばかりの新しい支援団体です（現在の会員数は200人を越え、一高同窓生以外の賛同者も入会できます）。さらに現地で先生の弟さん2人にもお会いしましたが、次男さんはプロジェクト許認可の書類作成、三男さんは大工さんとして、施設の建設に直



完成予定図



まだまだ建設途中

接かかわっておられることを知りました(まさに家族ぐるみです)。

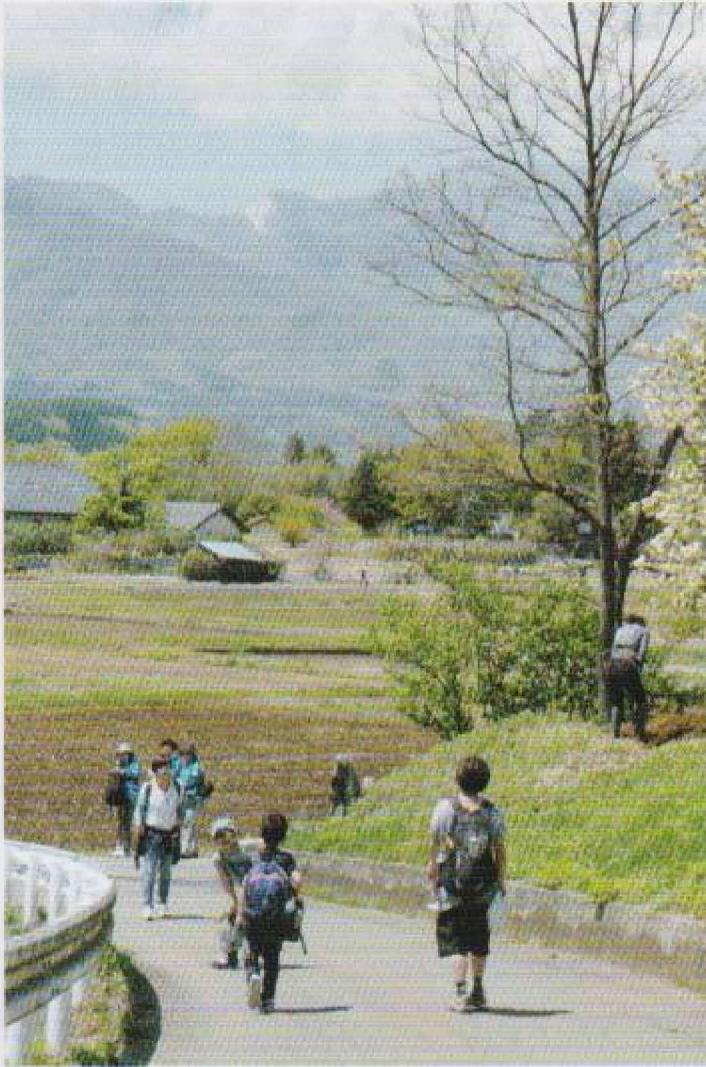
あおぞら共和国の現在は、予定の宿泊棟6棟のうち4棟と入浴棟が完成しており、3階建のセンター棟(40人くらいが宿泊可能な施設で、食堂、診療所などの併設を予定)とキッズハウス、ステージや広場などの外構設備が建設予定となっております。建設の工夫に伝統的在来工法(折置き組工法)の採用、地下埋め込み調整池(防火水の確保)、土地のDNAの保存(この土地から土を外に出さない、他の土地から土を持ち込まない、雑草の種も、モグラもそのまま、伐採した樹木は建築資材として活用し、根・枝の部分はチップで利用)、エコシステムの導入(太陽光発電・太陽熱水器)などの古典かつ近代的建築手法を融合させた地球環境に優しい造りを目指して建てられております。施設利用者は今年の5月で通算1500人にも達しており、家族利用のリピーターや施設単位での利用も増えているとのことでした。

今度は私の参加した今年4月23日の新緑ウォーク2016とその風景についてお話いたします。本チャリティーウォークは2012年から始まり、翌年から春の新緑時期と秋の紅葉時期の2回定期開催されているイベントです(後日集計で今年の新緑ウォーク参加者はおよそ220人でした。今年の新緑ウォークは10月29日、来年の新緑ウォークは4月22日

の予定。参加希望者はおぐちこどもクリニックまでFAXで申し込みください(042-786-4132)。今年は前日まで豪雨が降っていた白州ですが、当日は朝から雲一つない晴天の温かい散歩日和になりました。ウォーキング開始地点となるJR日野春駅は中央線八王子駅からスーパーあずさ5号で甲府駅まで1時間、中央本線に乗り換えて30分で到着しました。コースは日野春駅前でエントリーしてマイペースで歩き出し(障害児の家族は車いすを押して)、ゴール地点のあおぞら共和国



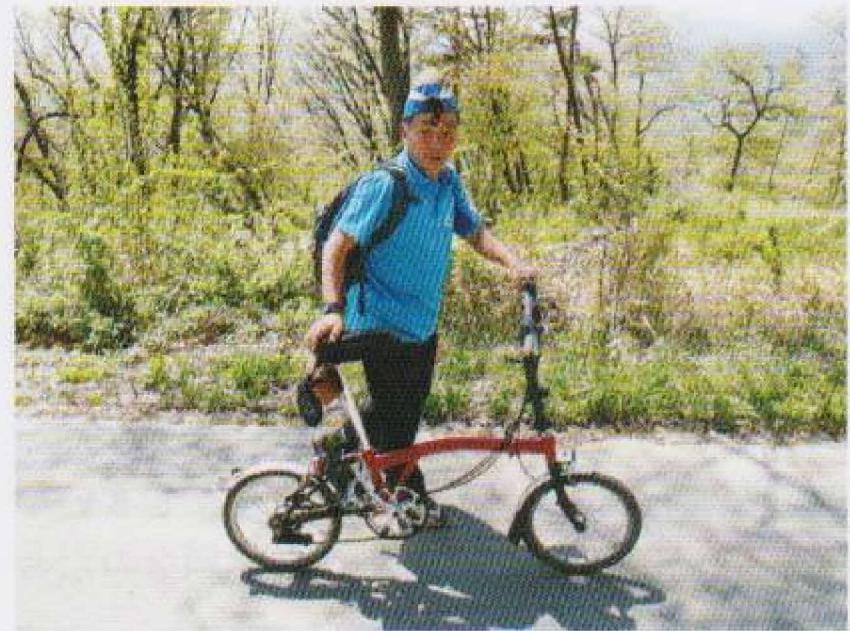
緑道



畑道



新緑ウォークのコースから見える甲斐駒ヶ岳



先生と愛車ブロンプトン



炊き出し風景

まで11kmを歩くものです。ただし、体力の個人差を考慮し、途中からの参加も可、さらにギブアップするとボランティアの回収班が車でピックアップしてゴールまで送ってくれます。さらにスタートして間もなく、山道コースと舗装路コースに分かれており、車いすで移動する人は舗装路コースでちゃんとゴールまで行けるように配慮されておりました。私たちは山道コースを行了きましたが、淡緑色のトンネルのような涼しげな林道や、視界が大きく開けて周囲の山々を一望できる畑道などの気持ちいい風景を沢山堪能できました。さて肝心の先生はというと、前日には現地の下見とおおぞら共和国に宿泊する子供たちの体調不良時に診療を引き受けてくださった北杜市の小児科クリニック院長飯塚恵美子先生へのご挨拶、帰路は標高800mの甲斐駒ヶ岳の麓に建つ“見晴らし荘”に移動しての前泊(総走行距離30km、愛車ブロンプトンにて移動)と超多忙なスケジュールをこなされていました。私達と合流した日もゴールからス

タート地点を何度も愛車で往復して、参加者を激励されているのが印象的でした。共和国ゴール地点での完歩パーティー(お惣菜やおにぎり、汁物などの提供)ではボランティアで、アフリカンパーカッションで有名な新倉



ジャズバンド

壮朗君(ダウン症のある青年)とアマチュアジャズバンドJazz Marketとの共演が行われており、終始和やかな雰囲気イベントが過ぎていきました。

ドクターの素顔がテーマですが、「僕のことはいいからあおぞら共和国のことをいっぱい宣伝してください」とのことでしたので、こんな旅行記のような内容になってしまいましたが、それが“小口弘毅”の素顔なのだと思えます。

最後に小口先生本人からのメッセージをお伝えいたします。

“私は20年以上新生児科医として働いてきたので、難病を持つ子どもだからこそ、家族と共に自然に親しみ、こどもらしい楽しい時間を過ごし、思い出をたくさん作るよう願ってきました。“あおぞら共和国”キャンプ場ではメヂカルサポート体制は未だ不十分で、親がケアをしなければなりません。しかし家

族全員(兄弟も含めて)のこころのレスパイトになり、難病のこどもと共に明日を生きる活力を得ることができます。さらには、家にこもり孤独になりがちな家族同士が友情を育む故郷のような場所となることでしょう。隣県の山梨県のレスパイト施設であり、神奈川県の子供達も利用していますので、先生方に関心を持ち、協力していただけることを願っています。”

### 参照：

あおぞら共和国

(みんなのふるさと“夢”プロジェクト)

<http://www.nanbyonet.or.jp/yumeproject/>

甲府一高あおぞら会

<http://ymkp.net/aozora/KFHSaozoraMosikomi.html>



ステンドグラス